

令和元年度 保育教材研究

《クラスの概要》

～H31.4～

☆0歳6名+1歳6名 計12名

1歳児・・・男児5名、女児1名 計6名 (5月生まれ4名 8月生まれ2名)

0歳児・・・男児2名、女児4名 計6名 (6月、7月生まれ各2名 8月、12月生まれ各1名)

～R1.6.31～ 1歳児1名退園

～R1.7.1～ 0歳児1名入園

☆0歳7名+1歳5名 計12名

1歳児・・・男児4名、女児1名 計5名 (5月生まれ4名 8月生まれ1名)

0歳児・・・男児3名、女児4名 計7名
(6月、7月生まれ各2名 8月、11月、12月生まれ各1名)

～R1.10.31～ 1歳児1名退園

～R1.11.1～ 1歳児1名入園

☆0歳7名+1歳5名 計12名

1歳児・・・男児4名、女児1名 計5名 (5月生まれ3名 7月、8月生まれ1名)

0歳児・・・男児3名、女児4名 計6名
(6月、7月生まれ各2名 8月、11月、12月生まれ各1名)

職員配置・・・防犯上、非公開とします

園内施設・・・防犯上、非公開とします

【 STEP 1 小規模保育のメリット・デメリットの考察 】 (R1. 5. 22)

○メリット

- 1 子どもの人数が少なく、保育者の数が充実している為、よく目が行き届き手厚い保育ができる
- 2 家庭的で安心して過ごせる雰囲気の中保育できる
- 3 保育者同士の連携が取りやすく、情報共有がしやすい
- 4 子どもと十分なスキンシップが取れ、深い関係を築くことができる
- 5 安全面へのサポートが素早く対応できる
- 6 生活習慣を獲得しやすい
- 7 子どもと丁寧に関われる
- 8 子どもたちの成長のステップを進めやすい

～当園ならではのメリット～

- 9 園舎が雁木沿いにあり、冬や小雨の日でも散歩できる
- 10 制作や活動にじっくりと取り組める活動時間があり、活動の幅が広がる
- 11 プール遊びを十分に楽しめる

●デメリット

- 1 保育室が狭く十分に体を動かせない (園庭がない)
- 2 子ども同士、保育者、関わる人が限られている為、刺激が少ない
- 3 異年齢児との交流が取りにくい
(4 感染症をもらいにくい、もらうと伝わりやすい → 換気・手洗い・玩具等の消毒を徹底)
(5 体調不良の園児を他児と分けるスペースが少ない
→ 小スペースながら空気の流れを考慮した隔離スペースの構築)
- 6 集団行動 (大人数) に慣れていない

【 STEP2 メリット・デメリットを踏まえて考案した活動 】 (R1. 5. 22)

実施予定	体を動かす遊び	実施日
5月～	リトミック	6/3(月)
9月～	サーキット遊び	10/30(水)
5月～	大縄	5/28(火) 10/30(水)
5月～	ロケット遊び	9/3(火)・9/5(木)
	羽根つき	2/4(火)・2/5(水)
実施予定	ゲーム遊び	実施日
5月～	おおかみさん	6/10(月) 8/30(金)
5月～	宝さがし	6/28(金) 8/30(金)
9月～	しっぽとりゲーム	2/7(金)
9月～	ボールリレー	10/8(火)
	陣取りゲーム	10/8(火)
	絵本絵さがしゲーム	12/18(水)
	玉入れ	12/18(水)
実施予定	プール遊び	実施日
7月8月	色水遊び	7/31(水) 8/2(金)
7月8月	氷遊び	7/23(火)
7月8月	傘を使った遊び	7/11(木)
7月8月	宝探し	8/7(水)・8/8(木)
7月8月	水風船	7/30(火)
7月8月	魚釣り	8/29(木)
7月8月	泡遊び	7/17(水)
実施予定	感触遊び	実施日
5月～	片栗粉粘土	6/7(金)
5月～	小麦粉粘土	9/10(火) 9/11(水)
5月～	スライム	7/29(月)
	パン粉粘土	1/14(火)
	新聞紙粘土	2/20(木)
	ゼリー遊び	2/27(木)・2/28(金)
実施予定	指先を使った遊び	実施日
9月～	トング遊び	10/25(金)
1月～	ボタン練習	2/7(金)
	ひも通し	2/7(金)
	きせかえ	2/7(金)
	コマ遊び	1/15(水)
実施予定	自然物を使った遊び	実施日
9月～	お散歩バックの活用	10/24(木)
9月～	自然物を使った制作	10/25(金)
	落ち葉おままごと	11/19(火)
実施予定	ごっこ遊び	実施日
9月～	洗濯ごっこ	11/6(水)
6月	海の生き物ごっこ	6/12(水)
	お買い物ごっこ	9/9(月) 10/1(火)
	ファッションショー	12/20(金)
実施予定	知育遊び	実施日
5月～	かるた遊び	6/11(木) 11/4(月)

活動を進める中で新たに考えた遊び

【 STEP 3 実際の活動内容と反省評価】

各テーマの遊びの中から事例を一部紹介します。

実施日 8月29日(木)	《プール遊び》 魚釣り	
1歳児	子どもの人数→5名	保育者の人数→3名

内容

以前子どもたちが色水遊びの際に絵の具で色を塗った画用紙に、保育者が魚や貝の形を型取り、それをラミネートしハサミでカット。

釣り竿は割り箸にすずらんテープを巻いてコーティングし磁石をつけたもの。

魚にはクリップをつけておいた。

プールの水面に魚を浮かせ、そのクリップ部分を狙い磁石がついた釣り竿で釣り上げる魚釣りごっこ。



反省・評価

子ども達に魚を見せると「さかな！」と大喜びの様子だった。

釣り遊びではほとんどやったことが無かった為、まずは魚釣り（どこに付けたらくっつくか）の説明から行った。水面に浮かばせたことで、水面がユラユラと動く度に魚も動き、魚のクリップに竿の磁石をくっつけるのが難しいようだった。しかし手で魚を持って磁石にくっ付けたり、近づけたりと子ども自身でどうやったらくっつくか考え、工夫しながら遊んでいた。

また、金魚すくいを使うポイ（網）の手作りしたものを用意すると、魚をすくったり、水の中に沈めたりして楽しんでいた。

今月でプール終了となる為、プールでの魚釣りは出来ないが、保育室内でやってみたいと思う。子どもたちから「お魚したいね!楽しかった！」と声が聞く事が出来てよかった。

実施日 10月25日(金)	《自然物を使った遊び》 自然物を使った制作	
1歳児	子どもの人数→5名	保育者の人数→2名

内容

☆事前準備

- ・どんぐりを洗う。
- ・どんぐりを熱湯につけて中に入っている虫を退治する
- ・どんぐりを乾かす
- ・どんぐりとポンポンに穴をあける。
- ・ひもの先にテープを巻く

☆当日の流れ

前日に拾ったどんぐりとポンポンの穴にひもを通し、ガーランドを作る。



反省・評価

「どんぐり」と自分たちの拾ったどんぐりを見るなり嬉しそうにしていた。トングでのおままごと遊びと並行して、順に制作に取り掛かったが自分の番が待ち遠しい様子だった。穴が小さかった為、ひもを入れることは出来なかったが保育者がどんぐりの穴からひもの先端を出すとひもの先端を左手、どんぐりを右手で持ちどんぐりをスライドさせていた。『どんぐりころころ』を口ずさみながら楽しんで取り掛かる子がいた。完成したガーランドを翌月のお部屋飾りで飾ると「どんぐり！作ったよね」と嬉しそうに眺めていた。

実施日 11月6日(水)	《ごっこ遊び》 洗濯ごっこ	
1歳児	子どもの人数→5名	保育者の人数→2名

内容

- ・椅子を横一列に並べて座る。
- ・洗濯バサミを手に取り開いたり閉じたりしてみる。
- ・右端の子から順に洗濯機へタオルを入れて取り出し、保育室内に張られたロープに掛ける。
- ・タオルを洗濯バサミで留めたら外し、タオルを畳みかごに入れ席へ戻る。
- ・1周したら自由に洗濯ごっこを楽しむ。



反省・評価

皆、上手に洗濯バサミ開いたり閉じたり出来ていた。1人ずつ順に行った事で洗濯の流れを確認しながら進めることが出来た。洗濯物を脇で挟み洗濯バサミを持ち直す子、手でパンパンと叩きしわを伸ばす子がいて普段から保護者の家事の様子を見ているのだなと感心した。畳む作業では綺麗に端を揃えて畳める子がいて驚いた。

実施日 12月18日(水)	《ゲーム遊び》 絵本絵探し	
1歳児	子どもの人数→5名	保育者の人数→2名

内容

- ・様々なジャンルの絵本を保育室の床に無造作に配置する。
 - ・保育者が出したお題の絵を絵本の中から探す。
 - ・見つけたら「あった」と保育者に知らせ、見つける速さを競う。
- *絵本は踏まないように間隔を開けて配置し、子どもに踏んではいけないことを知らせる。

反省・評価

絵本の内容をよく覚えていて、お題に沿った絵本をすぐを選んで探す子が多くいた。1位になる子は大体同じだったが、3位まで決めるようにした為、全員1回は絵を見つけ出すことができた。絵を見つけると嬉しそうに「あったよ」と言って保育者に絵を見せていた。一方でページを飛ばしてめくり、なかなか探し出せない子がいた。普段からじっくりと絵を見て絵本を読み進める習慣がつくようにしていきたいと思った。

実施日 2月7日(金)	《指先を使った遊び》 ボタン付け、ひも通し、着せ替え	
1歳児	子どもの人数→5名	保育者の人数→3名

内容

○ボタン付け

目がボタン、ひれに穴の開いた魚の手作り玩具を使用し、ボタンの付け外しの練習をする。

○ひも通し

果物が描かれた板の空いた穴に、青虫が先端についたひもを通す。

○着せ替え

3段収納のカードファイルにラミネートされた 顔・上衣・ズボンカードをそれぞれ入れ着せ替えを楽しむ



反省・評価

ボタン付けではほとんどの子が指導しなくてもボタンの付け外しが出来ていた。集中して遊んでいたが数が少なく 2 匹しか連結できず不満そうにする子がいた。もっと数を増やして繋げる楽しさも味わえるようにしたい。

ひも通しではひもの先に大好きな青虫がついていたことで、「青虫さんりんご食べてね」「パクパク」と独自のストーリーを交えて楽しんでいた。

着せ替えでは他児の洋服写真のカードを自分の顔の写真に着せ、「〇〇くんの服着ちゃった」と普段できない洋服の交換や自分なりのコーディネートを楽しんでいた。顔・上衣・ズボンのカードの右横に 3 色の画用紙で分類した為、同じカテゴリーのカードを 2 枚使う事もなく遊んでいた。しかし、カードの幅がファイルとあまり差がないカードがあり、入れるのに苦戦する姿が見られた。

実施日 2月27日(木) 28日(金)

《感触遊び》 ゼリー遊び

1歳児

子どもの人数→27日5名/28日→4名

保育者の人数→3名

内容

27日)・ゼラチンの粉をぬるま湯で溶かす。

- ・溶かしたものをボウルに分け、それぞれに赤・黄色・青の食紅を加える。
- ・食紅に異なる色の食紅を加え、色の変化を楽しむ。
- ・お玉でよく混ぜる。(5色のゼリー液を用意し、それぞれ異なる色のゼリー液を混ぜる)
- ・ラップを敷いた容器に自分が混ぜたゼラチンを入れる。
- ・容器を冷蔵庫に入れて冷やす。

28日)・1人1枚紙皿を配り、紙皿に各自が前日作ったゼリーを入れる。

- ・ゼリーを手で解す。
- ・解したゼリーの器を中央に集める。
- ・紙皿を1枚ずつ配り、手やスプーンで好きな色のゼリーを器に取り、遊ぶ。



反省・評価

27日) 夏に1度ゼリーを作ったことを覚えていたのか保育者がゼラチンにお湯をかけるとすぐに「〇〇が混ぜるの」と次の工程を予想し主張していた。食紅を入れ色づくゼラチンに「わあー」と歓声をあげていた。保育者が完成したゼリー液の色を尋ねると正確な色名を答えていた。容器に入れたゼリーは冷蔵庫で冷やし翌日遊ぶ事を伝えると「やったー」と喜び、翌日へ思いを馳せていた。

28日) 前回の反省を踏まえて容器にラップを敷いていた為、容器から簡単に取り出すことが出来た。自分の作ったゼリーの色を覚えており、保育者がゼリーを渡す前から自分の作ったゼリーの色を主張していた。ゼリーを崩す際には「冷たい」「柔らかい」「きれい」と感じた事を口にしていた。色々な色のゼリーを混ぜて遊ぶように促すと、自分の作ったゼリーが減っていく様を喜んでみていた。

【 STEP 4 1年間の教材研究を終えた考察 】 (R2. 3. 25)

～STEP 2のメリット・デメリットを踏まえて～

○メリット

1. 子どもの人数が少なく、保育者の数が充実している為、よく目が行き届き手厚い保育ができる。

5. 安全面へのサポートが素早く対応できる。

→活動の幅が広がり、子どもに様々な挑戦をさせることができた。

6. 生活習慣を獲得しやすい。

7. 子どもと丁寧に関われる。

8. 子どもたちの成長のステップを進めやすい。

→指先を使った遊びや衣服の着脱を取り入れた遊びを行う中で、丁寧にスモールステップで指導する事ができた。それにより、3月現在は多くの子が衣服の着脱を自力で行える。

～当園ならではのメリット～

9. 園舎が雁木沿いにあり、冬や小雨の日でも散歩できる。

→室内で発散できないと感じた時には、散歩に出掛けるようにした。年間を通して沢山散歩に出掛ける事が出来た。又、散歩バックを持たせて探索活動をし、拾ってきたものを活動に取り入れた事で自然に触れる機会も多く取り入れた。

10. 制作や活動にじっくりと取り組める活動時間があり、活動の幅が広がる。

→感触遊びを充実させることができた。最初は慣れない感触に抵抗を見せていた子ども、無理強いせず楽しい雰囲気作りをする中で自然と手を伸ばし触れるようになった。回数を重ねるごとに汚れを気にせず大胆に遊ぶようになり、度胸が身についた。これにより毎月の制作活動も意欲的に取り組むようになった。片栗粉粘土やゼリー等作る工程から子どもたちに見せながら保育できた為、最初の粉の状態からどのように変化していくのかを目の前で見たり、手で触れて感触の違いを確かめることができた。又、子どもが色を選んで作ったり、使いたい道具を選ぶ事で子どもの意見を取り入れながら進めることができ、それぞれの個性を発揮して遊ぶ姿がみられた。

11. プール遊びを十分に楽しめる。

→少人数だからこそ目がよく行き届き、泡遊びや色水遊び等様々な活動に挑戦できた。

●デメリット

1. 保育室が狭く十分に体を動かさない。(園庭がない。)

→保育室内でできる体を動かす遊びの工夫をし、時には汗をかくほど体を動かすことができた。

しかし衝突の恐れを考慮すると自由に思い切り走る遊びは取り入れられなかった為、もっと本園のホールを活用して遊べばよかった。

春から秋にかけてヒマワリ、千日紅をプランターで育て、身近に自然を感じられるようにした。

2. 子ども同士、保育者、関わる人が限られている為、刺激が少ない。

→遊びがマンネリ化しないように秋から冬にかけてゲーム遊びを多く取り入れた。これにより、話を聞く力やルールを守ろうとする意識が持て、少人数保育の中でも他児との人間関係を円滑にする術が身についてきた。又、勝って嬉しい、負けて悔しいという感情の芽生えもみられた。

3. 異年齢児との交流が取りにくい。

→夕方、本園の預かり保育の児童に遊びに来てもらった。夕方は更に人数が減り、遊びが発展しにくくすぐに飽きてしまうが幼児クラスの児童が来ることで良い刺激になった。幼児クラスの子と遊ぶ中でブロックの組み立て方やごっこ遊びの会話に変化がみられ、発展していった。最初は幼児クラスの児童と離れて遊んでいた子も保育者の仲立ちで興味を示し、ついて歩く姿が見られるようになった。互いに名前を覚え親近感をもったことで、本園へ行くことへの抵抗も薄れた。ごっこ遊びで本園を訪れた際は人の多さに圧倒されたが、知っている児童を見つけると安心して参加できており、1年間の交流が実を結んだと強く感じた。

散歩では神田小学校付近へよく出かけた。どんぐり拾いに行った際には小学生が校庭で遊んでおり、どんぐりの在りかを知らせてくれた。「どこ」と自らたずねたり、どんぐりを受け取りお礼を言ったりと良い交流ができた。

6. 集団行動（大人数）に慣れていない。

→デメリット3に記載したように本園幼児との交流を取り入れ、他クラスの児童に関心を持てるようにした。又、本園乳児と遊び、一緒に給食を食べたり、お遊戯会等の行事に参加する中で緩和された。

～まとめ～

小規模保育における教材研究ということで、5月に皆で小規模保育のメリット・デメリットを考察して視覚化し、遊びのアイデアを出し合った。

メリット・デメリットを視覚化したことで課題が明確になり、課題を基に遊びの考案が出来た。話し合う機会を設けた事でパート職員からもアイデアを貰うことができ、多くの遊びが提案できた。提案後すぐに遊びを一覧にし、年間計画を立てた為、見通しを立てて進めることができた。

又、制作したい玩具も一覧にした為、空いた時間に少しずつ余裕を持って制作する事ができてよかった。夕方の保育中にも手の空いた保育者が制作に取り掛かっていた為、制作の様子を子どもも目にする機会があり、どのような玩具が出来上がるのかという期待、完成したもので早く遊んでみたいという意欲をみせていた。

皆でアイデアを出し合い、遊びを充実させたことで子どもが家庭で活動の話をするようになった。子どもから活動の話聞いた保護者も活動に興味を示し、後日家庭でも実行していた。

又、ゼリー作りや羽子板あそびでは2日ばかりで活動を行ったが、子どもの話を聞いて保護者も翌日を楽しみに待つ様子がみられた。子どもが生き生きと遊ぶ様子や保護者からの活動への関心の声は私たち保育者の励ましにもなり、研究という義務ではなく子どもの反応を楽しみにして活動を考察するようになった。

小規模保育という限られたスペース、狭い人間関係の中で1年間研究を進めて、環境の工夫次第でデメリットを緩和できる活動もあり、遊びを発展させることもできると感じた。子どもの様子をよく見て、興味・関心の在りかを探り、子どもが夢中で遊び込める環境を作っていきたい。

以上